公表　放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	TREX			
○保護者評価実施期間	令和7年2月12日		～	令和7年3月28日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	47	（回答者数）	36
○従業者評価実施期間	令和7年2月12日		～	令和7年3月14日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	5	（回答者数）	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年4月1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちの様子を丁寧にアセスメントして それに沿った支援をおこなっている	スタッフ全員が臨床心理士であり、一人一人の子どものことについてスタッフ館で意見を出し合って支援を考えられる環境を意識している。	話し合いの時間を多く取れるように改善していく。
2	保護者の相談を丁寧にこなっている	活動の最後に、保護者と話す時間を必ずとっている。	話したい内容は保護者によってちがうので、限られた時間の中でニーズに応えられるように、保護者ごとの話すときのポイントをあらかじめ決めておく。
3	学校や他機関との連携を積極的におこなっている	活動の様子を連絡ノートにまとめて、それを学校にも渡してもらうようにお伝えしている。それによって双方に連絡をとりやすくなっている。	保護者から普段のことについて話を聞くときに、保護者から学校や他事業所の様子を丁寧に聞く。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子どもたち一人一人のことについて話し合う時間は確保しているが、もっと話し合う必要があると考えている。	通所している児童数に対して、スタッフが話し合える時間が足りていない。	児童によって担当者を決めるなどして、児童一人ずつに中心となって考えるスタッフを作る。
2	年齢があるにつれて、利用希望時間が遅い時間になるため、利用枠を確保することが難しい場合がある。	利用時間枠に限りがるため。	利用時間枠の調整とニーズの確認をおこなうことで、必要な方に必要なサービスを提供できるように検討する。
3	中高生が日常生活に活かせるプログラムが提供しきれていない。	従来のプログラムが小学生に一番適していることが多く、中高生になると個人での個々によって困りごとも多様化してきているため。	中高生には個別で話を聞く時間なども作っていく。